

経営者のための  
マネジメント  
解説書！

# 『社会から必要とされる会社』 になるために！

## 社会に期待され つづける 経営

### 永続する会社と起業家の条件

新日本有限責任監査法人 編

A5判・304頁・定価 本体3,200円＋税



#### 本書の特色

- ◆永続する会社を目指す経営者必読の書！
- ◆会社経営のポイントを整理し、社会から“期待される” “必要とされる”会社になるためのマネジメントを解説！

#### 内容見本

パート2 業績の維持・向上に関するマネジメント

**1 将来の方向性の「決定」**  
経営者の最も大事な役割を挙げるとしたら、「将来の方向性」を決め、社内に周知し頑張ってもらうように皆を鼓舞することであるといえます。この前提がなければ長期的に利益を出せるように会社を運営することはできないからです。  
たとえば、将来の方向性がよかつたとしても、その後の企業行動によっては成功できないこともあります。しかし、もし方向性が間違っていたれば長期的な成功は絶対に取れられないと断言できます。将来の方向性はすべての企業行動の原点であり、そこからすべて派生してくるのです。  
将来の方向性のことを経営学的には「経営ビジョン」などと呼んでおり、企業の行動指針、企業理念のようなものであり、なぜ自社が世の中に存在し、世の中のために何をやる会社なのかを掲げるものといえますので、できる限り内外に周知できるようにすべきものといえます。  
経営ビジョンの設定がしっかりしていれば、日々の事業展開は多少失敗があったとしても経営ビジョンに沿って軌道修正していけば、多少寄り道になるかもしれませんが、大怪我はしない経営には必ずです。つまり、自社の事業展開を経営ビジョンという原点に照らし合わせることで、長期的にみれば大きな判断ミスや失敗がない会社になれる可能性が出てくるのです。あるいは外部から見聞きする時には大きな失敗

#### パート2 業績の維持・向上に関するマネジメント

第三章 マネジメント実践事例の紹介「企業不祥事の防止策」

#### パート1 企業不祥事を防止する体制作り

**1 社会と共存共栄する体制（CSR態勢）の整備**  
事業計画を策定し、その事業計画のうち、直近1年については、損益計画だけでなく、資金計画、資本計画、さらに損益については、販売や購買のほか総合的な体系で、かつセグメント別や顧客別といったさまざまな切り口で具体化した予算を策定すべきです。しかし、策定できたとしても、それを実行していかなければ、それらは単なる「画に描いた餅」となってしまいます。事業計画を、あるいは、予算を確実に実行していくためには、実行するための「仕組み」を構築することが必要になります。  
この「仕組み」には、組織を適切に編成し、役割を適切に配分する、といったことから、組織の中でどのように情報を伝達するか、業務をどのようにチェックするか、といったことまで、さまざまな観点から構築することが求められます。  
そこで、A社長は、「今後、予算が達成されるよう計画どおり成果が出ているか確認していく必要があるだろうから、その検証資料を作成して毎月検討していく必要があるだろう」と考えました。「ただ、いい機会だから、そもそも今の当社に予算を達成するための管理体制が整備されているかどうか、改めて検証する必要があるな」と思っていました。また、「最近では、企業不祥事があると、当社のような中堅・中小企業はひとたまりもないから、できれば不祥事が起きない体制作りも念頭に置いて構築したいな」とも考えています。

## 第Ⅰ部 永続する会社と起業家の条件

## パート1 真のマネジメントを考える際の起業家のあり方

- ① 起業家になるためのモチベーション
- ② 起業家を取り巻く社会環境
- ③ 起業家になるために必要なこと
- ④ 起業家の持つべき考え方と能力
- ⑤ 起業家の心得は買い手の心をつかむこと
- ⑥ 会社経営は社会と良好な関係を築くことが重要
- ⑦ 永続する会社をマネジメントする起業家の心構え
- ⑧ 社会に期待される会社と永続性の関係

## パート2 業績の維持・向上に関するマネジメント

- ① 将来の方向性の「決定」
- ② 将来の方向性の「ヒント」
- ③ 将来の方向性の「具体化」
- ④ 経営環境の「把握」
- ⑤ 経営環境の「変化」
- ⑥ 事業内容の「決定」
- ⑦ 事業内容の「点検」
- ⑧ 企業行動の「選択」
- ⑨ 企業行動の「実施」
- ⑩ 経営判断の「見極め」
- ⑪ 事業計画の「効用」
- ⑫ 業務プロセスも「利益の源泉」

## パート3 企業不祥事の防止に関するマネジメント

- ① 不祥事のない会社
- ② 規律ある組織行動
- ③ 企業の社会的責任の追及
- ④ 業務プロセスからのCSR活動の「点検」
- ⑤ 社会的条件からのCSR活動の「点検」
- ⑥ コンプライアンスの熟成
- ⑦ コーポレートガバナンスの徹底
- ⑧ 内部統制の効率的な構築
- ⑨ 「創業期」における内部統制
- ⑩ 成長段階によくある落とし穴
- ⑪ 「飛躍」のための内部統制
- ⑫ 「上場会社」における内部統制
- ⑬ 押さえるべき内部統制の仕組み
- ⑭ 望ましい内部統制の例

第Ⅱ部 マネジメント実践事例の紹介  
「業績の維持・向上策」

## パート1 事例設定

## パート2 将来の方向性を考える

- ① 会社としての将来の方向性を決める
- ② グループ再編
- ③ 経営承継について（その1）
- ④ 経営承継について（その2）

## パート3 効果的な事業計画の策定

- ① 経営理念の策定
- ② 事業戦略の策定
- ③ 事業計画の策定上のポイント
- ④ 売上計画の策定ポイント
- ⑤ 生産計画の策定ポイント
- ⑥ 仕入・購買計画の策定ポイント
- ⑦ 設備投資計画の策定ポイント
- ⑧ 研究開発計画の策定ポイント
- ⑨ 人員計画の策定ポイント
- ⑩ 資金計画の策定ポイント

## パート4 予算管理

- ① 事業計画と予算管理のリンク
- ② PDCAサイクルの再確認
- ③ 月次決算と取締役会

第Ⅲ部 マネジメント実践事例の紹介  
「企業不祥事の防止策」

## パート1 企業不祥事を防止する体制作り

- ① 社会と共存共栄する体制（CSR態勢）の整備
- ② 倫理観を備えた運営体制（コンプライアンス体制）の構築
- ③ 経営者に規律をもたらす仕組みの構築
- ④ 内部統制構築

## パート2 業務サイクルごとの管理ポイント

- ① 販売管理
- ② 購買管理
- ③ 外注管理
- ④ 原価管理
- ⑤ 在庫管理
- ⑥ 固定資産管理
- ⑦ 資金管理
- ⑧ 人事労務管理
- ⑨ 研究開発管理
- ⑩ IT（全般）管理

## コーヒーブレイク

- 1 ニーズとシーズ
- 2 ニッチ市場を見つけるヒント
- 3 イノベーションの事例
- 4 最低限実施できる内部統制

お試し読み、お申し込みはコチラ

&lt;クレジットカードでもお支払いいただけます&gt;



第一法規

検索

